

(別紙2)

第35回「水の週間」水を考えるつどい

シンポジウム

水の恵み



岩手県宮古市提供

東日本大震災を機に



宮城県登米市提供

あらためて 考えてみませんか？



防衛省提供

防衛省提供

普段当たり前のように 使える「水」

平成23年8月1日（月）
午後2時10分～午後4時25分
会場 / 科学技術館サイエンスホール
（東京都千代田区北の丸公園2-1）
・地下鉄東西線 「竹橋駅」 下車徒歩7分
・都営地下鉄新宿線 「九段下駅」 下車徒歩7分

主催：国土交通省
東京都
水の週間実行委員会

入場料無料
(事前申込制)



シンポジウムのテーマ

「水の恵み ～東日本大震災を機に考える～」

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、広い地域で断水が起きるなど、普段蛇口をひねれば当たり前のように使えた「水」が大きく脅かされました。避難生活を送る多くの被災者が求めたものは「水」であり、様々な生産活動も水が届かないことで大きな痛手を受けました。水源から私たちのもとに一刻も早く届くよう、全国一丸で復旧に取り組む必要性が認識されたところです。

「水」について考えてみると、これまで我が国では水資源開発を積極的に推進したこと等から、全体としてみれば日常の生活や食料生産・工業生産といった経済活動において水に困る状況からは脱却しつつあります。また、森が水を育み、川には豊かに水が流れ、水田は水を湛えるといった水が織り成す自然環境は、多様な生き物を育むとともに美しい文化・景観を形成してきました。このような「水は当たり前」という今日の状況は、これまでの先人達の実践による「水の恵み」とも言えます。

しかし、我が国は地震をはじめ自然災害の多い国であり、このような自然の脅威と今後も向き合っていかななくてはなりません。今回の東日本大震災を契機に、私たちが受けている様々な「水の恵み」を守り続けるために、一人一人何ができるのか考えてみましょう。

プログラム

■第1部 「水」が脅かされた東日本大震災

①宮城県南三陸町からの報告

佐藤 仁 (宮城県南三陸町長)

②仙台東土地改良区からの報告

佐藤 稔 (仙台東土地改良区理事長)

③東京都水道局からの報告

狩野 裕二 (東京都水道局配水施設工事連絡調整担当課長)

■第2部 東日本大震災を機にあらためて考える「水の恵み」

①「水の恵みがもたらす食料と農業」(仮)

荘林 幹太郎 (学習院女子大学教授)

②「水とエネルギー」(仮)

井上 素行 (立命館大学チェアプロフェッサー)

③「水が織り成す美しい文化・心のふるさと」(仮)

宮村 忠 (関東学院大学名誉教授)

申し込み方法 下記の申込書に必要事項を記入のうえ、切り取らずにそのままFAXにてお送りください。

申込先 水の週間実行委員会事務局 TEL048-600-6513 FAX 048-600-6510

※会場への入場は14時までをお願いいたします。

入場の際に混雑が予想されますので、時間に余裕を持ってご来場下さい。

申込年月日 平成 年 月 日 (必ず記入して下さい。)

水の週間記念シンポジウム参加申込書(当日は、この申込書を控えとして、持参下さい。)

お名前	
ご連絡先	
職場・会社名	
参加人数 (参加者全員の氏名)	(名)